

2020年度第2回キャリアパス講演会・懇談会

下記の通り、2020年度第2回キャリアパス講演会・懇談会を開催致します。大学で学んだ気象学を活かして気象庁に奉職され、札幌管区気象台、気象研究所、気象庁予報部で活躍されて素晴らしいキャリアパスを形成された講師の講演を聞き、懇談して頂きます。学部1年生から大学院生まで、ぜひご参加ください。入退室自由です！！



日時：2020年11月11日(水) 16:10～

会場：オンライン (右QRコードにより事前登録をお願いします)

話題提供者：永戸久喜氏 (気象庁気象研究所研究調整官)

演題： 顕著現象の観測と予報 ～気象庁での業務経験を振り返って～

趣旨：私は、京都大学理学部で気象学を学び、大学院修士課程修了後の1993年に気象庁に入庁しました。初任官署となった札幌管区気象台では、当時の技術部観測課及び予報課に在籍し、地上気象観測や府県予報及び海水業務等の各種現業業務とそれらに関連する技術開発・調査研究等に従事しました。

その後、1996年に気象研究所に異動し、当時の予報研究部でメソ気象研究とメソ数値予報技術開発に携わりました。その当時、研究室長の吉崎正憲さん(前立正大学教授)の主導により、豪雨・豪雪をもたらすメソ気象に関する大規模な観測プロジェクトが、全国の大学等研究機関との協力によって実施されていました。また、研究室においては、当時最先端の技術であった非静力学数値予報モデル(後の気象庁非静力学モデル)の開発が進められていました。私はこれらの研究・開発活動に参加し、主に冬季のメソ気象擾乱に関して、観測と数値実験に基づきそれらの構造やメカニズムの解明を目指した研究に携わりました。

気象研究所での14年間の研究生生活の後、2010年に気象庁予報部に異動し、数値予報課に在籍して、当時のメソモデルグループリーダーとしてメソモデルや局地モデル等の現業メソ数値予報の技術開発に携わりました。また、2014年には数値予報班長として、全球モデルや観測データ利用等も含めた、気象庁の現業数値予報の技術開発を統括することになりました。

更に、2016年には数値予報モデル開発推進官として、現業数値予報技術開発推進のための庁内及び庁外の大学等研究機関との連携に向けた各種企画・調整業務に携わりました。その後、2018年に予報課アジア太平洋気象防災センターに異動し、所長として現業台風業務と国際気象防災支援に携わった後、今年度より、古巣である気象研究所に戻り、研究調整官として、主に基盤技術研究の推進やスーパーコンピュータ等の研究基盤の整備、及び各種技術開発や研究に関する庁内外との連携に向けた企画・調整を担当しています。

このように、私は気象庁において、主に豪雨・豪雪をもたらすメソ気象や台風といった顕著現象の観測と予報に関する現業・研究・技術開発及び企画・調整の各種業務を経験してきました。講演では、これらの経緯とその時々自分の考えや思いについて振り返るとともに、お世話になった多くの方々との関わりについてお話したいと思います。私のこの様な経験が、少しでも皆様のキャリア形成の参考になれば幸いです。



冬季観測 (新潟県上越市)



梅雨期観測 (鹿児島県長島町)